

図書館員のおすすめ本

小学生

低学年（1・2年生向け）

『リトアニア民話 パンのかけらとちいさなあくま』

内田 莉沙子 再話, 堀内 誠一 画/福音館書店



【内容紹介】

貧乏な木こりからパンのかけらを盗んだ小さな悪魔。大きな悪魔たちに怒られて、木こりにおわびをすることになります。木こりは小悪魔に、地主から借りた沼地を麦畑に変えてもらうことにしました。小悪魔と木こりは一緒に麦畑を立派にしたのですが……。リトアニアに伝わる小悪魔の昔話。

【図書館員からのコメント】

あまり悪魔っぽくないかわいらしい小悪魔のお話です。一休さんの話のように、小悪魔が知恵を働かせて、悪い地主からどう木こりを助けるのか、楽しみながら読めます。

文章量もそれほど多くないので、低学年が音読しながら読むのにちょうどいい量だと感じました。

中学年（3・4年生向け）

『ものの見方が変わる！ 世界のことわざ』

時田 昌瑞 監修/ナツメ社



【内容紹介】

ことわざがあるのは日本だけではないと知っていますか？この本では、78の国と地域の約320ものことわざを紹介。ことわざが生まれた国の特長や名産も載っているので、一度読むだけで何度も楽しむことができる本です。

【図書館員からのコメント】

世界の面白いことわざがイラスト入りで紹介されているのでイメージしやすく、いろいろな文化の違いを、ことわざを通して学ぶことができる1冊です。知っているとなぜなる豆知識もたくさん載っていますよ。

高学年（5・6年生向け）

『こども問題解決教室』

困ったときに自分の力で突破できるようになる本』



茂木 秀昭 監修, バウンド 著/カンゼン

【内容紹介】

問題解決能力を向上させると学力が向上するだけではなく、将来いろいろな分野で活躍できる人物になれるかもしれません。困ったときに自分で解決策を考え、判断し、悩みを突破してみましょう。

【図書館員からのコメント】

漢字が苦手、朝寝坊しちゃう、アイデアが浮かばない……。日々の生活で困っていることもたくさんあるのではないのでしょうか。困っていることをそのままにせず、どうしたら解決することができるか、たくさんのヒントが書かれています。

中学生

『芥川龍之介作品集 蜘蛛の糸』

芥川 龍之介 作, 東 直子 編, 秋赤音 絵/ポプラ社

【内容紹介】

御釈迦様が極楽から地獄を覗いたとき、カンタダという男を見つけました。悪事を働いたカンタダでしたが、一匹の蜘蛛を助けたことがあったのです。それを思い出した御釈迦様は蓮池にいた蜘蛛の糸をそっと地獄に垂らすことにしました……。

標題の『蜘蛛の糸』の他に俳句や短歌、詩などを含む15作品が収録されています。一度は読んでおきたい作品が詰まった一冊です。

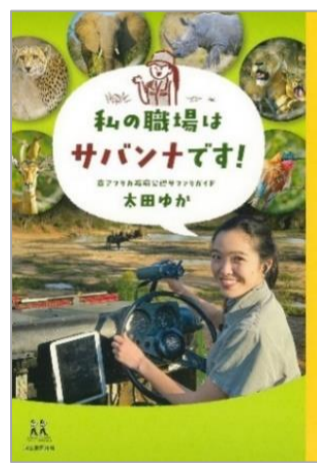


【図書館員からのコメント】

芥川龍之介のお話は、『蜘蛛の糸』の他に『杜子春』や『羅生門』など教科書に掲載されているものも多いです。使い慣れない言葉の意味も作品の最後に記載されているので、あとで確認することもできます。教科書から興味を持った人にも、これから作品に触れる人にもおすすめの本書です。

『14歳の世渡り術 私の職場はサバンナです！』

太田 ゆか 著/河出書房新社



【内容紹介】

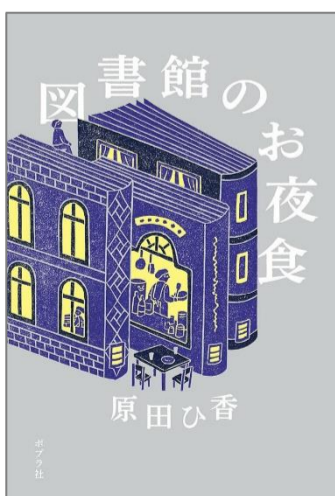
南アフリカ共和国で唯一の日本人女性サファリガイドとして働く著者が、サファリガイドになるまでの過程や、サバンナで暮らす動物、鳥、昆虫の魅力的な生態、現地が直面している環境問題について紹介します。

【図書館員からのコメント】

サバンナの生態系がとても複雑で、小さな生き物から大きな動物まで絶妙な関係性で自然環境が保たれていることを分かりやすく知ることができます。今まで知らなかったサバンナで暮らす動物たちの習性が、写真入りでたっぴりと楽しめます。

『図書館のお夜食』

原田 ひ香 著/ポプラ社



【内容紹介】

東北の書店に勤めるもののうまいかず、書店の仕事を辞めようかと思っていた樋口乙葉は、SNSで知った、東京の郊外にある「夜の図書館」で働くことになる。そこは普通の図書館と異なり、開館時間が夕方7時～12時までで、そして亡くなった作家の蔵書が集められた、いわば本の博物館のような図書館だった。乙葉は「夜の図書館」で予想外の事件に遭遇しながら、「働くこと」について考えていく。

【図書館員からのコメント】

夜だけ開いているミステリアスな図書館。そこで起こる事件などが主人公、乙葉の目線で描かれています。本や図書館に興味を湧いてくるような作品です。